紙ふうせん

KAMIFUSEN　No.73

成田市立図書館だより　第73号　2012年（平成24年）3月31日発行

編集　成田市立図書館　〒286-0017 千葉県成田市赤坂1-1-3　☎ 0476-27-4646
FAX 0476-27-4641
http://www.library.narita.chiba.jp

「なつやすみおはなし会」2011.8.26

おはなしのろうそくに火が灯ると、こどもたちは物語の世界に引き込まれていきました。

共催　成田市立図書館・おはなしがらがらどん

市史講座　2011.8.21(日)　成田国際文化会館

「成田の地名と歴史－大字別地域の事典－」刊行記念講演会

講　師　　明治大学名誉教授　大塚　初重氏　「台地はかたる」
　　作　家　　五木　寛之氏　「きのう・今日・あす」

大塚初重さん

今年度の市史講座は『成田の地名と歴史－大字別地域事典－』刊行記念講演会として、本書の編集委員長である明治大学名誉教授大塚初重さんと、先生とラジオをきっかけに対談し、その後も親交を深めていらっしゃる作家の五木寛之さんのお二人を講師に迎えお話をいただきました。

大塚初重さんは、「台地はかたる」と題し、市内には様々な遺跡が確認され重要且つ貴重な遺跡が数多く存在することをお話しされました。最初に、1,000か所を超える遺跡の中で、猿山で発見されたナウマンゾウのほぼ完全な頭蓋の化石は稀有であること、また成田空港内は約３万年も前に遡る古込遺跡や東峰御幸畑西遺跡など県内有数の旧石器時代の遺跡密集地であることから、いかに北総台地が生活しやすい場所であったかがよくわかると述べられました。

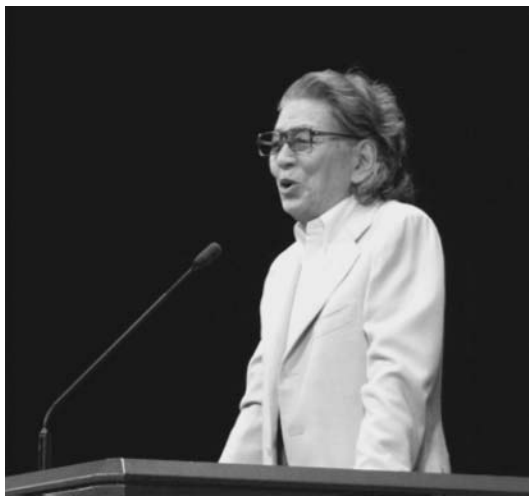
縄文時代については、南羽鳥中畠第１遺跡から出土した人頭形土製品は、5500年前のお墓の副葬品で国内初の発見であることから国の重要文化財に指定。「大英博物館に展示されるほど貴重なもの。成田の文化財が世界を駆け巡ることもあるのですね」とおっしゃっていました。また、縄文時代から弥生時代への移り変わりを探る上で重要な貝塚が、荒海貝塚と台方花輪貝塚である。中でも荒海貝塚は市内最大規模の貝塚で、関東地方縄文時代晩期最終末の荒海式土器と命名された標識遺跡であるとのことでした。

古墳時代は、印旛沼周辺に広がる県内屈指の公津原古墳群と龍角寺古墳群の２大古墳群について触れていただきました。公津原古墳群は江戸時代より古墳の多い場所と知られ、赤坂公園内にある船塚古墳は全長86mの市内最大の古墳、ところがその形が大変珍しく、県内最初の発見となった前方後方墳であったそうです。他の古墳群と比べ方墳の割合が多く、築造は４世紀代から開始されるなどの特徴を指摘され、現在40基の古墳が県の指定史跡として保存されているとのことでした。そして龍角寺古墳群との年代比較から、６世紀後半から地域の勢力が成田から栄町周辺地域へと移り変わることを指摘されました。

最後に、刊行された本について、「合併を契機とし、成田の地名に視点をあてた新しい本です。読めなかったり初めて聞いたりする地名もあり、私も今後勉強しようと思っています」と結ばれました。

五木さんは、「きのう・今日・あす」と題し、震災を機に故郷（ふるさと）とは何か、改めて問われる時代が来ているということ、故郷の歴史を知ることの大切さを、引揚者として肩身の狭い思いをした少年時代、筑豊炭鉱の人々の明るさに救われたことなど、ご自身の生い立ちや体験を通して語ってくださいました。「これからの私たちは、生まれ育った所と生活を営んでいく所、２つの故郷の間で揺れ動きながら生きていくしかないのでしょう」と結ばれました。

参加者は、「成田にこんなに有名な遺跡があることを初めて知りました」、「大変示唆に富み考えさせられるお話でした」と余韻をかみしめながら会場を後にしました。



五木寛之さん

林真理子さん

文学講座　2011.10.18㈫

「小説を書く時間」

講 師　　作 家　　林　真理子氏

今年度の文学講座は、直木賞作家の林真理子さんを講師に迎え、「小説を書く時間」と題して講演をいただいた。林さんは、山梨県に生まれ、大学卒業後コピーライターを経てエッセイ集を出版、その後初めて書かれた小説が直木賞候補に選ばれたことを機に、作家活動に専念。昭和61年に『最終便に間に合えば』『京都まで』で直木賞、その後『白蓮れんれん』で柴田錬三郎賞、『みんなの秘密』で吉川英治文学賞を受賞。現在も、多数の作品を執筆されるかたわら、直木賞の選考委員やその他数々の文学賞の選考委員を務めている。

開口いちばん「私、忙しいんです」と会場の笑いを誘う林さん。創作活動や家事、ボランティア活動と、多忙な毎日を過ごされている。毎朝家族のための弁当作りに犬の散歩、本業も異様な忙しさで、連載小説を４つと週刊誌や新聞のエッセイに対談。執筆活動のための取材も一切妥協はせず、自らの足で情報収集に努める。困っている人がいると放っておけない性格で、人のためにせっせと支援することに骨身を惜しまない。今年は特に、東日本大震災の被災地にも何度も足を運び、震災チャリティーのための活動にもかかわっている。親切を通り越して、おせっかいというか、頼まれると断れない性分とのこと。

忙しい時間をやりくりしての執筆活動だが、日常の何げない出来事や、様々な経験の中にこそ作品のヒントがあり、積極的に情報を収集するために日々の忙しい生活があるとのお話で、先生の生活スタイルそのものが小説を書くために必要な時間となっている様子。「自分は作家に向いていると思う」と自ら語る林さん。創作中、一人で陶酔して、夢中で手を動かしているときがあるという。まさに、作家は天職。文学の力が弱くなってきている今日、だれもが読みたくなるような面白い本をお届けするのが作家の役目であり、今後は、文学史に残るような作品を書いていきたいとの抱負を語られた。

災害に備える

2012年２月29日（水）の館内整理日に防災訓練を実施しました。避難誘導、防災設備の確認、消火訓練等を行い、ＡＥＤ(自動体外式除細動器)の救命講習も、消防職員から受けました。

人が災害に直面した際の心理状態は、平常時とは異なり、さまざまな矛盾した行動をとってしまうことがあると言われています。

そうなったとき
どうすればいいのか …

来館者の安全を確保する、守ることを第一に、何をすればいいのか、現状をどう判断すればいいのか、緊急時に迅速に行動し、適切な対応がとれるよう、そのための技能や心構えを学びました。

赤ちゃんも絵本が大好き Part 15

「ねこがいっぱい」グレース・スカール／さく　やぶきみちこ／やく　福音館書店

おおきいねこ、ちいさいねこ、しましまねこ、ぽちぽちねこ・・・いろんなねこが次々に出てきます。最後は全部のねこが集合して、一緒に「にゃーお」。わかりやすい単純な絵と、耳に心地よい言葉の繰り返しも魅力です。同じ作者の『いぬがいっぱい』も一緒にどうぞ！

編集後記

嘉月(かげつ)、早花咲月(さはなさづき)、夢見月(ゆめみづき)、これらの言葉は陰暦三月の異称です。西洋の暦を遡ると、ローマ時代には、太陽が真東から出る《春分》が春の初めを意味し、この日がすべての生命が新たな営みをはじめる出発点とされ、年の始めと考えられていました。過去に、未来へ、人それぞれに思うところのあるこの季節、生きてきた時間(思い)を、暦が時間の流れに区切りをつけるように割り切ることは難しいとも感じられます。それでも、数珠つなぎにつながる時の刻みの流れの先を意識して行きたいと思います。

図書館では、先月、防災訓練を行いましたが、今後も防災意識を高め、来館者の皆さまに安心して利用していただけるよう努めてまいります。

成田市立図書館だより　No. 73
発　行　成　田　市
編　集　成田市立図書館
〒286-0017　千葉県成田市赤坂1-1-3
☎0476-27-4646
発行日　2012. 3. 31
登録番号　成教図11-045

PRINTED WITH SOY INK
リサイクル適性Ⓐ
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。